



日本政策投資銀行

ラグビーワールドカップ2019日本大会の 九州における経済効果試算

2015年3月
株式会社日本政策投資銀行
九州支店

1. はじめに ～ラグビーW杯を九州で盛り上げよう～

ラグビーワールドカップ(W杯)2019日本大会の開催都市が決まった。日本全体では12都市、そのうち九州からは、福岡・熊本・大分の3都市が選定された。

現在ラグビー日本代表は世界ランキング11位と着実に力をつけており、4年毎に開催される世界最高の舞台、W杯に向けてさらなる戦力アップを図っているところである。スポーツイベントとしてはサッカーワールドカップ、オリンピックに次ぐ国家的プロジェクトであり、今後の盛り上がりが期待される。

東京五輪2020の開催地域は東京中心、期間は17日間であり、短期間に国内外から東京周辺に人が集中しごった返す。首都圏やその周辺地域は五輪に来たインバウンド観光客にどうやって足を伸ばしてもらうかに知恵を絞っている。これに対してラグビーW杯は、開催地は全国12都市、期間はラグビーには一定の試合間隔が必要であることから45日間が予定されており、過度に集中することなく全国で展開される。九州のような東京から遠い地域にとって、地域の良さをアピールする貴重な機会となるのではないかと期待されている。

ラグビーW杯はワールドラグビー(2014年11月より名称をIRBから変更)が主催しているが、これまでの大会は何れもイングランド、ニュージーランドなどラグビー主要国で開催されており、それ以外の国では初めてである。もちろんアジアでは初開催となる。ワールドラグビーとしても2019年大会をラグビーの裾野を広げる意味で非常に重要な大会だと位置づけている。来日観戦者が20～30万人と言われており、日本全体で大量のインバウンド観光客を受け入れることになる。

九州はもともとラグビーが盛んな地域である。ジャパンラグビートップリーグにも九州のチームは常に名を連ねているし、高校ラグビーは全国で最もレベルが高い。そして何より子供の頃に楕円球に触れる機会が多いのも九州の特徴だ。これを機に九州全体でラグビーが盛り上がっていくことを期待している。

ラグビー主要国におけるファンはその歴史から、他のスポーツに比して所得の高い層が多いと言われており、滞在中の消費も大いに期待ができる。そこで、一定の想定の下、ラグビーW杯開催による九州における経済効果はいか程であるか算出を試みた。

2. ラグビーワールドカップの経緯

- ・ラグビーワールドカップはオリンピック、サッカーワールドカップにつづく世界3大スポーツ大会のひとつ。
- ・2019年大会は日本で開催されることが決定している。開幕戦と決勝は新国立競技場が会場となる予定。
- ・第1回大会は、1987年にニュージーランド・オーストラリア共催。その後、ラグビー主要国にて、2011年のニュージーランド大会まで7回にわたって開催。第8回大会は今年イングランドで開かれる。(ラグビー主要国: イングランド、ウェールズ、スコットランド、アイルランド、フランス、南アフリカ、オーストラリア、ニュージーランド)
- ・開催間隔、年次はオリンピック、サッカーワールドカップと重複しない形で4年に一度開催する形態。
- ・日本チームは第1回より毎回出場するも、決勝トーナメント(8強)への進出はまだ成し遂げられていない。

図表1 大会規模の推移

回	年次	開催地	本選参加数	予選参加数	チケット販売総数	TV視聴者	TV放映国
第1回	1987年	ニュージーランド オーストラリア	16	—	60万枚	2.3億人	17
第2回	1991年	イングランド	16	31	100万枚	14億人	103
第3回	1995年	南アフリカ	16	52	110万枚	23億人	124
第4回	1999年	ウェールズ	20	69	170万枚	31億人	209
第5回	2003年	オーストラリア	20	82	189万枚	34億人	193
第6回	2007年	フランス	20	94	225万枚	42億人	200
第7回	2011年	ニュージーランド	20	92	135万枚	39億人	207
第8回	2015年	イングランド	20	80	240万枚		
第9回	2019年	日本	20				

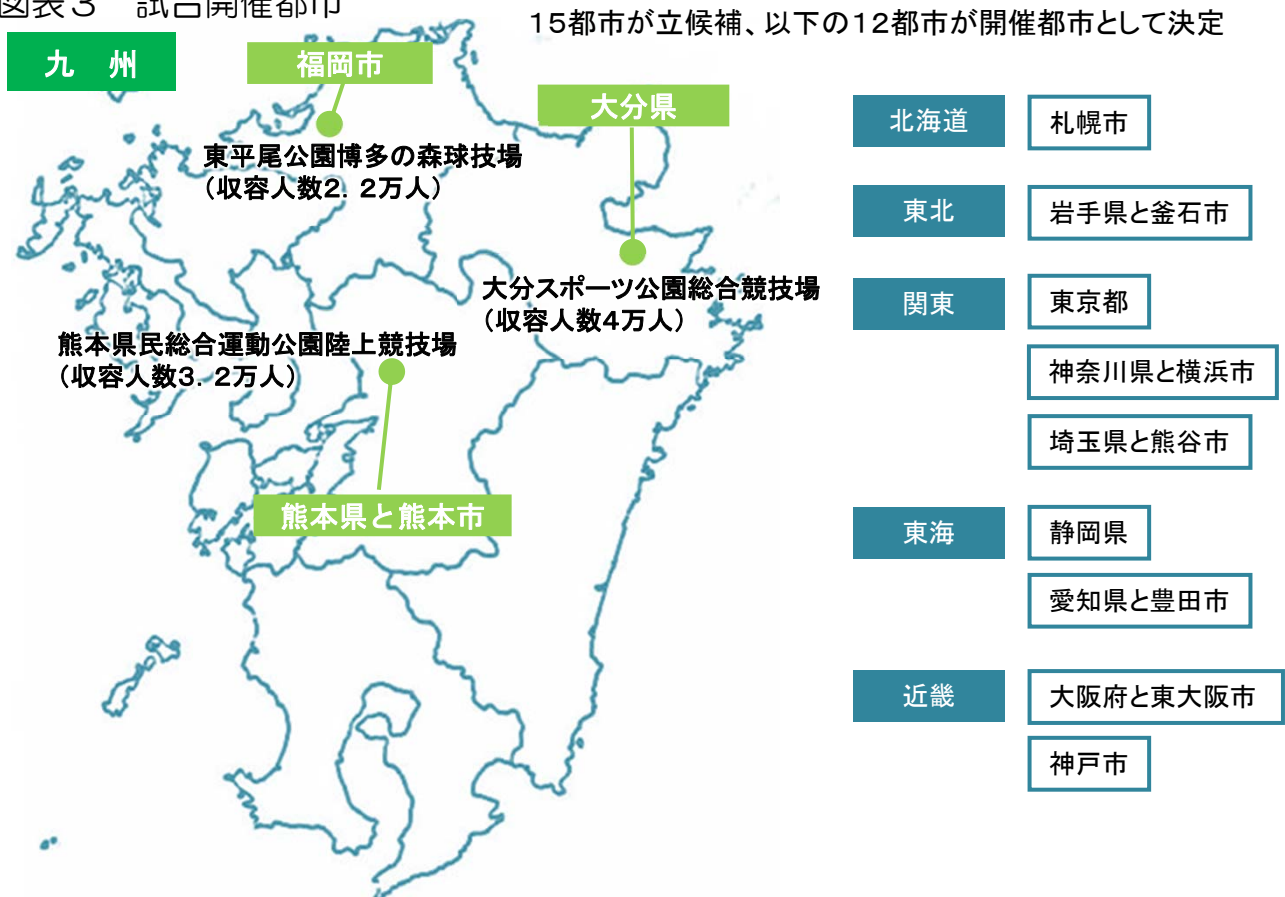
3. ラグビーワールドカップ2019日本大会の概要

- ・ラグビーワールドカップ2019は、その翌年に開催予定の東京オリンピックと比較して開催期間が長いこと(ラグビーW杯:45日間、東京オリンピック:17日間)、開催地が全国に散らばることから地方においてより多くの経済効果が期待されることが特徴である。
- ・全国15都市が開催地として立候補し、ワールドラグビーおよびワールドカップ2019組織委員会による審査の結果、全国で12都市、九州からは福岡、熊本、大分の3都市が開催都市として選出された(図表3参照)。

図表2 大会概要

出場チーム数	20チーム
試合数	48試合(予選リーグ40試合、決勝トーナメント8試合)
大会時期・日数	2019年9月6日～10月20日の45日間程度
試合形式	予選プール:5チーム×4組で組内総当り戦、上位2チームが決勝トーナメント進出 決勝トーナメント:8チームによるトーナメント形式+3位決定戦
試合会場数	12カ所(開幕戦と決勝は東京の新国立競技場)
会場の条件	予選 けごり-A:4万人以上、けごり-B:2万人以上、けごり-C:1.5万人以上 決勝T 開幕、決勝、準決勝、3位決定:6万人以上、準々決勝:3.5万人以上
キャンプ地	出場チームにより1ヶ所滞在型と複数ヶ所移動型があるため、キャンプ地数は20ヶ所とはならず、現時点での正確な数は不明。

図表3 試合開催都市



4. 世界における日本ラグビーの地位

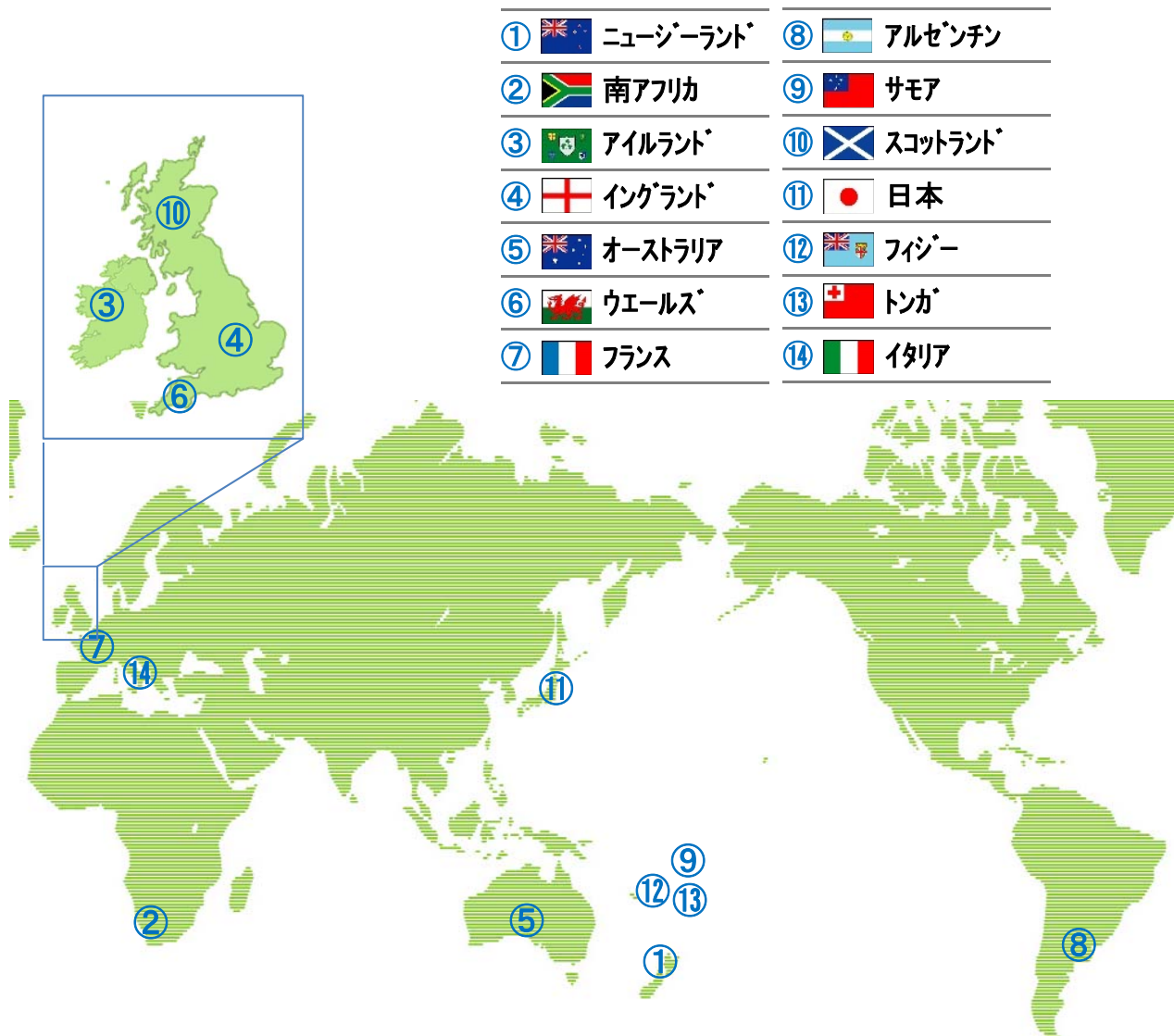
- ・2003年には世界ランキング20位であった日本代表は、エディー・ジョーンズ監督による指導の成果もあり、2014年11月には一時9位にランクインするまで成長している。
- ・図表5から判るようにランキング上位国は欧州とオセアニアに集中しており、アジアでは日本が最上位（アジア2位は韓国で世界24位（2015/3/9時点））。

図表4 日本の世界ランキング推移

時点	ワールドカップ	日本の順位
2003	オーストラリア	20位
2007	フランス	18位
2011	ニュージーランド	15位
2015	イングランド	11位

（2014/11には9位にランク）

図表5 直近の世界ランキング（2015/3/9現在）

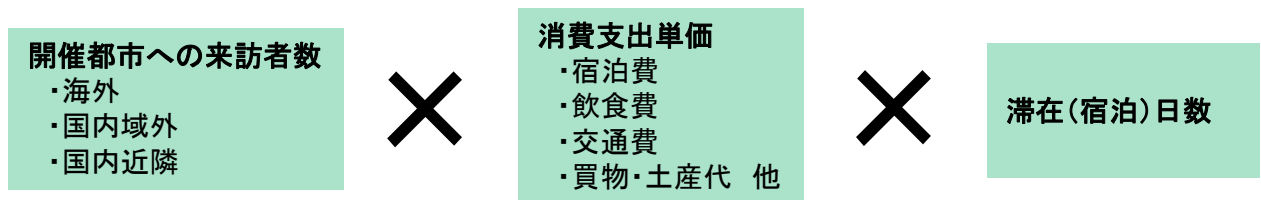


5. 経済波及効果算出プロセス

- ラグビーワールドカップ2019の九州における経済効果は、九州に来訪した観客が九州域内で消費することにより発生する「直接効果」と、直接効果に誘発される「間接波及効果」の合計として算出した。
- 直接効果は九州への来訪者を「海外」、「国内域外(宿泊)」、「国内近隣(日帰り)」に分類し、それぞれに宿泊費、飲食費、交通費、買物代等の消費支出単価と滞在日数を掛けて算出(図表5参照)。
- 間接波及効果は、直接効果に伴う原材料等の購入(投入)によって誘発される財・サービスの生産額である「1次波及効果」と、直接効果や1次効果による雇用者所得増加により消費支出が増加することで誘発される財・サービスの生産額である「2次波及効果」の合計として算出(図表6参照)。

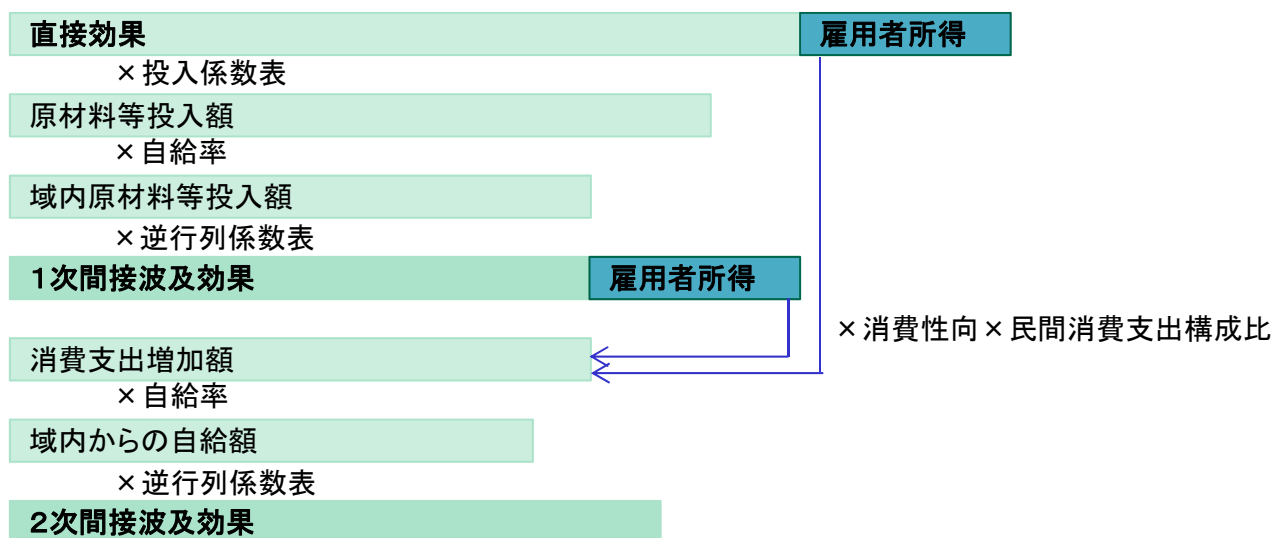
図表5 直接効果

九州域内で発生した新規需要



図表6 間接波及効果

- 1次波及効果: 直接効果に伴う原材料等の購入(投入)によって誘発される財・サービスの生産額
- 2次波及効果: 直接効果や1次効果による雇用者所得増加により消費支出が増加することで誘発される財・サービスの生産額



6. 九州における経済波及効果の試算結果

- ・前項の算出プロセスに基づき試算を行った。福岡、熊本、大分の3都市それぞれで3試合、合計9試合が実施されたと想定した場合、直接効果が210億円、1次波及効果が83億円、2次波及効果が57億円で合計350億円の経済効果が見込まれる結果となった。
 - ・上記ケースは九州内でキャンプ地が4ヶ所設定されたと仮定し、キャンプ地の経済効果も織り込んだ数値である(但し、キャンプ地の経済効果は開催地と比して僅少)。
 - ・なお、期間中の九州への延来場者数は27万人、うち海外から4万人と想定している。
- ＜参考＞ラグビーW杯2019組織委員会は大会の経済効果を全国で9.9～16.4億ポンド(1,680～2,780億円)と想定している。

九州で9試合実施されると想定

直接効果	1次波及効果	2次波及効果	経済波及効果計
210億円	83億円	57億円	350億円

九州における経済波及効果は350億円と試算

7. 結び

- ・ラグビーW杯2019期間中は、欧州、オセアニアを中心に世界各地からの観戦客が九州に来訪することが予想される。これはインバウンド客の9割以上がアジアからの来訪客である九州にとって、新たなインバウンド客を取り込む絶好の機会である。インバウンド客増加を踏まえた取組は既に活発化しており、滞在型ホテル建設、MICE整備等により多様な客層への対応が見込まれるが、ラグビーW杯2019がこれに拍車をかけることは間違いない。
- ・九州内における経済効果を高めるためには、
 - ① 大会そのものを全国的に盛り上げて来客数を増やす
 - ② 各都市それぞれの「おもてなし」により開催試合を盛り上げる
 - ③ 3都市が連携することで九州外からきた客に九州内を周遊してもらうことが重要。このうち②、③は九州に住む我々自身が考えて行くべき事柄である。
- ・幸い今回は開催都市が通例より早く決まったので、九州の自治体関係者等には今年開かれるラグビーW杯2019イングランド大会を観に行く機会もある。現場の空気に触れることで様々なアイデアが出てくるであろう。
- ・今後の準備期間を使って、滞在型のホテル等の整備などハードインフラの拡充と、英語を問題なく話せるホテルスタッフ、タクシードライバーの育成などソフトインフラの拡充の両方が重要となる。
- ・今回試算した経済効果の数字はラグビーW杯2019の大会期間中に限定した効果である。受入体制が強化されインバウンド客等がリピーターになれば、経済効果は試算金額の何倍にもなると見込まれる。



当レポートの分析内容・意見に関わる箇所は、筆者個人に帰するものであり、株式会社日本政策投資銀行の公式見解ではございません。

本資料は著作物であり、著作権法に基づき保護されています。本資料の全文または一部を転載・複製する際は、著作権者の許諾が必要ですので、当行までご連絡下さい。著作権法の定めに従い、転載・複製する際は、必ず、出所:日本政策投資銀行と明記して下さい。

(お問い合わせ先)

株式会社日本政策投資銀行 九州支店 企画調査課

〒810-0001

福岡県福岡市中央区天神2-1 2-1 天神ビル

Tel : 092-741-7737

E-mail : kyinfo@dbj.jp